

---

# 高校生回顧録

エナカ ユイリ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

高校生回顧録

### 【Nコード】

N2242BA

### 【作者名】

エナカ ユイリ

### 【あらすじ】

奥村飛鳥。独身、玩具会社社員。彼はある日、母校が廃校になると同級生から聞かされた。そして彼は高校時代を振り返り、今の自分を見つめ直す。

俺、高校時代のあだ名『復刻大臣』にかけて最後の仕事をします。

## 第一話

母校が廃校になる。と俺と同じく高校の近くに住んでいる宮地大みやじまやしろから聞かされた。

二つ向こうの駅の近くにある高校と合併するらしい。たまたまコンビニで会ったからヤツに聞いても実感が無い。もちろん、驚いた俺の一番思い出深い場所の役目が終わるのだから。けれど廃校まであと二年もあるという。

そつえば、十年ぐらい高校に行つてないな。

俺は、来年の文化祭は一緒に行こうと宮地に言つて帰った。

あの頃、何に熱中していたらう。何が流行っていたらう。そう帰る道中車内で思い出す。

○  
- - - - -  
- - - - -  
○

夏休みが終わり、二学期が始まるうとしていた。  
生徒の気は緩み、頭の色や耳にピアスなど夏休み前と様子が変わっている者が多数いる。

奥村飛鳥おくむらあすか。名前の割に男。十六歳。海里ヶ丘高校二年三組。帰宅部。

得意なこと無し。親友と呼べる人二名。  
最近ハマっているモノ、古いモノ。

皆、彼を『復刻大臣』と呼ぶ。

「大臣おはよ」

飛鳥に声をかけたのは、親友その一の宮地。  
遅刻ギリギリで始業式の会場、体育館へ向かって走っている。

「おい宮地、間に合うのか？」

「大臣、お前も歩いていないで急げよ」  
「確かに」

二人は走ってクラスの列に入る。

もつと時間に余裕を持って来いとクラスの整列の責任者、評議委員に軽く怒られた。

お昼頃、下校。

部活のある者は即座に部室へ。

宮地は飛鳥に別れを告げて男子テニス部の部室へ行く。

「男テニ、明後日休みだから遊ぼうな！」

とも言っていた。

「俺がバイトだから無理だわ」

「マジか…」

落ち込む宮地の背中寂しかった。

「二人とも忙しそうで。大臣、帰るよ」

そして今、飛鳥に声をかけたのが親友その二、はやしだけいすけ林田慶輔。通称、リンダ。学年の中ではかなりのイケメン。いつも冷静だが、時々尖った態度に豹変する。

「おう」

「今日、ステップの発売日だから立ち読みに行こうよ」

「そうだな。先週のツーピースやばかったよな？」

古いモノオタクの俺、運動バカ宮地、トンガリキャラのリンダの三人組。これが俺たちにとってのいつものメンバーだった。

この頃、あんな複雑な関係になってしまふとは思わなかった…。それは文化祭前、俺が彼女と別れてから始まった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2242ba/>

---

高校生回顧録

2012年1月5日18時54分発行